

## 2023年度自己点検・自己評価について（国際高等課程）

### I. 当校における自己点検・自己評価の取り組みについて

本校では、2005年度から、全国にあるYMCA専修学校とともにYMCA独自の自己点検・自己評価を実施し、教育の改善に努めてまいりました。2007年度の学校教育法および同法施行規則の改正により、専修学校においても2009年度から自己点検・自己評価が義務づけられたことを契機に、自己点検・自己評価の内容を同法に沿う形に改め、実施に取り組んでいます。

### II. 2023年度自己点検・自己評価の結果について

#### （1）全体的な傾向

自己点検、自己評価者の範囲は常勤職員にも広がっていますが、各々の学校に関する理解度や設問の受け取り方によって値が変わってくることも見受けられます。学校運営の項目では、運営方針や事業計画は定められているものの、周知できていないことも分かります。また、設備については評価が低くなっています。これは、グラウンドや専門科目の教室が少ないことに起因するものです。全般としては、教職員が生徒のために尽力し、かつ密な情報交換を行っている結果が推察されます。「教育理念、目的、育成人材像」や「生徒の受け入れ募集」「国際交流」などの項目が高い評価となりました。両学科とも財務状況を責任者だけに留めず開示したことも、評価が高くなっている一因と思われます。

一方、授業評価はこれまでなされておらず課題であり、この部分の検討・強化の必要性が評価から見られます。

#### （2）項目毎の現状・課題と改善方策

##### （1）教育理念・目的・育成する人材像

###### ①現状と課題

###### ・教育理念の明確化について

本校は1980年に大阪府より専修学校としての認可を受け今日に至っており、高等課程では国際学科を1988年、表現・コミュニケーション学科を2005年に開設しております。しかし、その歴史は1882年の大阪YMCA創立以来、最も古い記録では1893年の英語夜学校設立までたどることができます。キリスト教精神に基づいて始められたYMCAは、「精神」「知性」「身体」の調和の取れた全人教育を理念としており、本校もこれを教育理念として掲げています。今回の自己評価は、平均3.1となっており、学校関係者評価は平均3.5と高い評価になっています。昨年度に比べ自己評価が0.4低くなっており、

その原因は国際学科で学内ルール変更した際のプロセスに対する教員の受け取り方が影響していると考えられます。

パンフレットやホームページには教育理念を明記しており、それぞれの学科のスクールモットーも明確です。生徒・保護者・教員に対しては学校説明会や入学後のオリエンテーション、日常でも伝えており、国際学科では週に一度スクールモットーに照らし合わせた自身の行動の振り返りを行っています。中学校への募集案内の際にも理念を明確に、理解を得るようになっています。

## ②今後の改善方策

生徒の出身中学校などに、本校の特徴・理念の周知をするため、中学校訪問を強化します。また、外部団体が主催する説明会などにも積極的に参加し、関係者への周知を図ります。対外的にはマスメディアや新聞を通じた広報にも働きかけます。また、対内的にもより多くの教員に理解が行き届くよう努力いたします。

## (2) 学校運営

### ①現状と課題

#### ・運営方針、事業計画について

学校法人大阪YMCAで10年単位のビジョンを策定し、これに基づき2～3年単位の中期事業計画を立て、それをもとに法人に属する各学校の年度単位の事業計画を策定しています。本校もそのプロセスを経て、中期および年度単位の事業計画に基づいた学校運営を行っています。

#### ・運営組織や意志決定機関について

上記学校運営に関わる事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校事業責任者会議がそれを受けて具体的な運営を行っています。本校においては、高校生事業会議でさらに、学科の責任者がそれぞれの部門の目標、役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営を行っています。また、部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従って目標を理解し、役割と責任を果たしています。

#### ・人事や処遇に関する制度について

定年制教職員の採用・人事・研修（一部非常勤者対象も含む）等に関しては、本部事務局が管轄し、また常勤教職員や非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄しています。これらの要員計画は、事業計画に基づいて策定しています。また、定年制教職員の処遇に関しては、人事考課制度（MBOの活用による評価制度）を定め、これとの連動による昇進・昇級および賃金規程を定めています。

#### ・情報公開について

自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報は、ホームページで公開しております。

本部事務局にはICT推進室が置かれ、全事業所の業務管理と効率化を図っており、常に改善をしております。個人情報保護のため、全パソコンのUSB使用も禁止となっております。

## ②今後の改善方策

大阪YMCAの学校事業全体で整備に取り組み、2019年度より就業規則を改訂しました。より公正かつ適切で明確な処遇に改善しました。情報公開はしているにも関わらずそのことが周知できていないことが結果から読み取れます。教職員への周知を進めていきます。

### (3) 教育活動

#### ①現状と課題

##### (目標の設定等)

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等については、教育理念を具現化するための適切な教育課程を編成しております。授業のみならず学校行事一つひとつにおいて毎年、丁寧な見直しをしております。今年度はコロナ禍以前のプログラムを実施することができました。

各学科の特色に基づき、毎年教育目標を見直し、目標達成に向けた年間計画を策定し実施しています。

##### (教育方法・評価等)

時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させています。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応しています。

教科会議は学科毎に頻度が違い、頻度が低い学科は計画的に実施し、授業評価なども適切に実施できるようにしていきます。

表現・コミュニケーション学科の職場体験については、希望者のみならず必要とされた人に実施し、実習前研修、ライフスキルの授業など体系的に行っております。現在は受け入れ企業を確保出来ており、YMCAの他法人へも受け入れ依頼をしている状態です。国際学科においては、一人あたり40時間のインターンシップを学科の特徴としており、生徒の希望に沿った職場体験を実施することができました。

##### (教職員)

#### ・教員の確保とスキルの向上について

本校では、教員のスキルの向上について、大阪YMCA主催のセミナーを案内して参加を促し、表現・コミュニケーション学科講師会等で教員の取組などが発表されています。今年度も教員同士での授業見学を行いました。研修授業の実施ができていませんが、公開授業を行うことで代用としています。教員には学年当初または学期当初にシラバスの提出を求め、部門責任者がそれをチェックし、必要に応じ指導を行っています。

教職員の研修は、職員と常勤教員に対しては大阪YMCA全体で、安全研修と人権研修がそれぞれ年2回実施されています。また、高校生事業として年間で研修計画を作成し、救急法や対象理解の研修を実施しました。高等課程主催の一般教職員向けのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしております。業務遂行のための研修は、OJTの視点を重視して日常業務の中で指導しています。

二カ月に1度、アドバイザー会議を行い、学校運営の客観的な意見をいただいていることは、今後も継続的に実施いたします。

#### ②今後の改善方策

授業評価の方法や内容について、今後協議・実施していきます。今までの教育方法がアクティブラーニングになっていますが、それらを評価し直し、次年度は研究授業を実施する予定です。

### (4) 学修成果

#### ①現状と課題

##### ・進学率の向上について

本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には各担当者（大学—国内・海外、専門学校、職業訓練校）が、生徒一人ひとりの希望に応じて、計画的に進路指導を行っています。保護者にも1年次から適切な時期に進路ガイダンスを行い、学校と家庭が協力して支援することを行っております。国際学科は4割が関関同立早慶上智以上、2割が海外留学と日々の学習の成果を出す事が出来ました。卒業生の「適切な進路指導が出来ている」に対する評価が低く、これは3年次の担任の途中退職が影響したものと考えられます。生徒にとっての担任の存在の影響は大きく、継続した支援ができるよう体制強化に努めます。

・資格取得率の向上について

資格取得を目標とする学科ではありませんが、英検、漢検、P検などは体系的な指導のもとに、生徒の学習意欲を高める動機づけとして資格取得できるように努めています。

・生徒指導と退学率の低減策について

複数担任制を導入し、ホームルーム、ショートホームルームで日々の様子を把握し、生徒の学習および学校生活の情報を教職員が連携して共有することにより、退学率は大変低くなっています。

・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

在校生はもちろん、卒業生についても動向の把握に努めております。「地域の成人式に出にくい」という生徒の声に応え、卒業後、「20歳の成人祝福礼拝」を実施しております。卒業生には月に一度の特別活動、不定期なボランティア活動、年に一度のアンケートを実施しております。また大阪市不登校通所事業の業務委託や尼崎市教育支援室の業務委託を受け、そこにも卒業生がメンタルフレンドとして活躍し、就労移行支援の位置づけにもなっております。卒業生の相談も継続的に受けています。

②今後の改善方策

両学科の卒業生が、卒業後も新たな進路でやり抜ける力を育むため、カリキュラムの見直しを行い、課題解決能力を養っていきます。活躍している卒業生に学校の教育活動に寄与してもらっているが、個人レベルの繋がりとなっているため、学校として繋がる方策を検討し、寄付などの要請も実施していきます。

(5) 生徒支援

①現状と課題

・進路および生徒相談に関する支援体制について

本校では、国内外の大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者として、各クラス複数の担任を配置して、一人ひとりの志望と能力・資質にあわせて進路指導と生徒相談に対応しています。

担任だけが対応するのではなく、学校全体での支援を保護者・医療機関、場合によっては中学校とも連携をとって行っています。「生徒・保護者からの相談体制は整備されているか」3.7「保護者と適切に連携しているか」3.6となり高評価となっています。保護者の評価も「教職員は、親身に適切に対応している」が在校生保護者96%、卒業生保護者100%、生徒においては「親身に相談のってくれる」が在校生91%卒業生90%と高評価でした。

表現・コミュニケーション学科では大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に生徒のサポートをしています。また、大学や専門学校との連携によりインターシップや実習の受け入れを行うことで、生徒にとっての多様な出会いの機会を増やすことができます。

両学科とも週に一度生徒支援会議を実施しています。また必要に応じて緊急会議や継続生徒支援会議を行い、一人ひとりの生徒を丁寧に支援しています。

保健室の養護教諭・カウンセラー・特別支援教育コーディネータとも十分な連携がとれ、重篤なケースは併設する総合教育センターや他機関（病院等）への誘導も行っています。反面、これらの丁寧な支援に教職員が多くの時間を費やすことが課題となっています。キャリア教育については、今年度は地域若者サポートステーションに依頼し、外部講師による授業を実施しました。

## ②今後の改善方策

高等学校、高等専修学校や専門学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みについては、特定の学校のみとなっているので、学校以外の外部機関との連携も視野に入れ、今後広げていきたいと考えております。

## (6) 教育環境

### ①現状と課題

#### ・施設・設備等について

本校では、専門学校の設置基準に基づき、学生・生徒が快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保しています。また、それらの整備状況を各課程・学科の責任者が常に把握し、使用状況、使用計画、使用内規、学生・生徒に対する使用案内を行っています。

施設・設備のメンテナンスに関しては、責任者から上げられるレポートをもとに専門学校責任者会議で検討し、防災センターの一括管理と更新計画に基づいて、これにあたっています。オンライン配信用のPCの購入やプロジェクターの設置、ホワイトボードの設置など、教育環境の改善に努めております。また、国際学科では2021年度よりBYOD（一人一台の端末を持参）を実施し、在校生の85%、卒業生100%がその利用について満足しており、効果を実感できています。

#### ・職場実習、海外研修等について

高等課程では職場実習や海外研修に積極的に取り組んでいます。

外部関係機関・企業との連携による職業訓練校見学や大学のオープンスクール参加、職場実習などを、生徒の職業観を育てる一端としております。また、多感なこの年齢での、アジアやニュージーランドでの海外研修の体験は、人としての成長を豊かにするものとなっています。国際学科はデンマークの高等学校とも連携協定を結び、同一年度内に双方の学校が往来をしています。このプログラムを経て大きく成長した姿を見ることができ、成果を実感しています。

#### ・防災に対する取り組みについて

毎年、法令に基づいた防災訓練を行っています。これは、大阪YMCAで作成している「安全管理ガイドライン」に基づいて本校の防災マニュアルを作成し、それに従った要員の配置と役割の明確化により防災訓練を行うものです。防災訓練は、2011年度より従来の火災を想定したものに加え、地震・津波の想定にも対応した訓練を加えています。また、要員の異動等による変更は毎年確認し、責任を明確にしています。高等課程として独自にマニュアルを作成し、救急法も毎年実施しております。災害時、持ち出し用の非常連絡先カードを作成し、全員に提出を義務付けています。今年度は喫緊の課題であった備蓄食料の購入を進め、飲料水と非常食を用意しました。

また、学内や学外での万一の場合に備え、傷害保険に加入しています。

#### ・学校行事について

両学科ではコロナ禍以前のプログラムを実施することができました。表現・コミュニケーション学科では、3年生は2泊3日で広島に行き、広島平和記念公園を含む碑めぐりや被爆者の方のお話を聞きました。また、例年1年生は徳島県阿南市にあるY M C A阿南国際海洋センターでの海洋プログラムを実施していましたが、持病のある生徒の安全を考慮し、場所をびわ湖に変更し、水辺のアクティビティーを行いました。プログラムを通じ仲間づくりを行い、成果を実感することができました。国際学科では、阿南国際海洋センターでの海洋プログラム、デンマークとの交換留学、インターンシップやスキー実習など従来の学校行事を行いました。国際交流や体験学習を希望して入学してきた生徒が多いため、満足度は高く、充実したものになりました。両学科共に課題学習発表会を実施し、生徒が自ら課題を設定し、調べ学習からさらに考えを深め、対話的で協働的な深い学びの成果発表の場としています。

## ②今後の改善方策

非常時に対応する備蓄の食糧を引き続き確保し、賞味期限の管理を行います。

## (7) 生徒の受入れ募集

### ①現状と課題

#### ・生徒募集活動について

本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法については教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めています。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成しています。表現・コミュニケーション学科は、2022年度より定員を50名とし、より多くの生徒を受け入れるようにしました。

学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップを行っています。

#### ・入学選考について

入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載しています。

#### ・学生生徒納付金について

理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学生生徒納付金金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定しています。

## (8) 財務

### ①現状と課題

#### ・学校の財務基盤について

本校では、本部事務局と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年半期ごとの理事会・評議員会のチェックを経て、財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っています。

課題としては、国際関係、社会経済状況等により左右されない安定した財務基盤が求められています。

#### ・予算・収支計画について

予算・収支に関しては、中期計画、年度計画に基づいて執行しています。予算・収支の総

額および収支各項目の妥当性は、理事会・評議員会においてチェックがなされ、予算の問題点や今後の動向については業務組織に対する指摘が行われます。

・会計監査について

半期ごとに年2回、監事による会計監査と監査法人による会計監査を適正に行っており、理事会・評議員会に報告しています。

・財務情報の公開

自己点検・自己評価を公開するとともに、財務情報の公開も行っています。

②今後の改善方策

安定した収入基盤の確立のため、また多文化理解向上やグローバルな人材育成のためにも、国際学科は2015年に学科改編をしました。そこから8年、安定した運営になってきていますが、留学する生徒が年々増えていることで、クラス運営とのバランスや留学時期の一定のルールを作成しました。表現・コミュニケーション学科は定員の充足を図ります。そのために教育活動の充実と広報の強化を図ります。

(9) 法令等の遵守

①現状と課題

・本校におけるコンプライアンスについて

本校では、学校事業本部、本部事務局に法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、各本部への報告を通じて、運用が適切であるかどうかを検証しています。

・個人情報の保護対策について

本校では、2005年以来、大阪YMCAで定めた個人情報保護ガイドラインに基づき、学校に必要な個人情報の保護を、学校事業本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者に対してそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めています。

・自己点検・自己評価の実施・改善と結果公開について

2008年度から自己点検・自己評価の実施、生徒・保護者アンケートを行うとともに、積極的に公開しております。

・第三者機関による評価について

本校ではこれまで第三者機関による評価は実施していませんでしたが、学校関係者評価は学内に定着させております。今後第三者機関の意見を取り入れることが課題でしたが、その一歩として、社会的インパクト評価の実施を進めています。

②今後の改善方策

引き続き社会的インパクト評価を進め、次年度は成果を発表します。それにより第三者機関からの意見を取り入れられるよう進めます。

(10) 社会貢献・地域貢献

①現状と課題

本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会教育活動に取り組んでいます。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀地域活動委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、大阪市や西区役所との連携により数々の社会教育活動を、生徒と共に行っています。

地域に対する公開講座・教育訓練については、高等課程内のY M C A総合教育センターにおいて、一般や教職員を対象として実施しています。オンラインで実施することで、より多くの方に受講いただけるようになりました。

両学科協働で行うアートで社会と繋がる活動では、淀川キリスト教病院の季節のデコレーションを作成したり、福祉施設の七夕飾りを作成したりしました。また大阪メトロの駅に生徒作品の展示要請があり、協力をいたしました。

「ピンクシャツデー」の取り組みはいじめ防止のための大きな一歩となりました。

地域コミュニティ作りのためのとさぼりカーニバルは学校行事として位置づけております。今年度は地域の子どもたちやその保護者など約1000人の来場者がありました。コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食の販売はできませんでしたが、その分生徒は工夫を凝らしバザーやゲームコーナーなどの模擬店を出店しました。子どもたちや保護者の方にご参加いただきその利益を寄付することができました。3年生はSDGsについて学び、グッズの作成販売や、ゲームコーナー、ポスター展示など啓発活動を行い、その利益を寄付することで社会課題に貢献しました。国際学科では、スクールフェスティバルと位置づけパフォーマンス披露や模擬店販売を行いました。

## (1) 国際交流

### ①現状と課題

大阪Y M C A国際専門学校にはビジネス専門課程を中心に留学生が400人以上在籍していることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツがある生徒が5割、また法人内にY M C Aインターナショナルスクールをもち、世界の120の国と地域にY M C Aがあり、国際交流をするには、大変恵まれた状況にあります。生徒たちは多様な国籍の人たちとの空間を日常的に過ごしています。

### ②今後の改善方策

学校内が地球であるという考えのもと、今後も多様性を生かし、生徒たちがグローバルな視点で平和を考えていけるように、その機会を提供したいと考えています。

## Ⅲ. 2023年度外部アンケートについて

### (1) 全体的な傾向

昨年に引き続き外部アンケートを実施いたしました。生徒にはホームルームを利用して実施、保護者にはGoogleフォームにて回答を依頼しました。

外部アンケートは昨年通り全般に高評価です。学校関係者評価では、外部アンケートの評価の高さに驚かれ、非常に高い評価をいただきました。「この学校に入学してよかった」には在校生が91%、卒業生92%となっており、生徒の満足度が伺えます。卒業生の保護者に関しては「この学校にお子様を入学させて良かった」が100%となり、教職員、学校関係者も非常に驚く数字になっており、学校に対して深い信頼関係ができていたことが見てとれます。

### (2) 項目毎の現状・課題と改善方策（在校生・卒業生）

#### (1) 学習態度

##### ①現状と課題

生徒自らの態度について問うものですが、遅刻、欠席についての質問に「そう思わない」と回答している割合の多さが目立ちます。不登校経験のある生徒が多いこともひとつの原因と思われます。それ以外では、概ね評価は高いと言えます。遅刻、欠席の多い生徒には補講を実施し、その振り返り面談の中で対策を一緒に考えるようにしています。

#### ②今後の改善方策

遅刻、欠席をすることがあると自覚している生徒について、引き続き生活改善や対策を共に考え、改善を目指していきます。国際学科では生徒との話しあいを持ったうえで、遅刻のルールを変更しました。

### (2) 授業

#### ①現状と課題

各評価項目はおおむね80%以上が「そう思う」「ややそう思う」となっています。生徒にとっては満足のいく授業に改善したと受け止めております。習熟度別のクラスに対しても、機械的に点数でわけのではなく、必ず生徒の気持ちを尊重して行うことが反映されていることと思われます。特に「授業はわかりやすい」には在校生1%、卒業生0%が「そう思わない」となっており、教員の努力がみられます。少人数制のクラスやアクティブラーニングを実践していることもこの評価につながったと思います。

### (3) 学校行事

#### ①現状と課題

「学校行事が楽しみである」の項目は「あまりそう思わない」「そう思わない」が在校生17%、卒業生29%となり、行事が苦手な生徒も多い中、事前の準備や保護者への説明会などにより、比較的強く抑えられていると考えられます。

#### ②今後の改善方策

学校外の方々と共に活動する学校行事は多く、また行事準備への時間を多くとっています。不登校経験が長く、人と集団で活動する経験が少ない生徒が表現・コミュニケーション学科には多く、学校行事は敷居が高いところもあると認識し学校行事の取り組み方を工夫いたします。

### (4) 生徒支援

#### ①現状と課題

両学科とも高い評価でした。「教職員は親身に相談にのってくれる」在校生91%、卒業生90%でした。複数担任制や職員が生徒に関わっていることがこの評価に繋がったと考えます。

### (5) 学校生活全般

#### ①現状と課題

「校内の施設や設備は充実している」が在校生は83%、卒業生が54%となり、徐々に改善していることが見えてきたと思われます。

#### ②今後の改善方策

学校の施設・備品の老朽化に関しまして、引き続き計画をたて改善していきます。次年度は10年ぶりにPCroomのPCの入れ替えを予定しています。

### (3) 項目毎の現状・課題と改善方策（保護者）

#### (1) 学校運営全般

##### ①現状と課題

「この学校にお子様をいれて良かった」は、「そう思う」「ややそう思う」をあわせると、在校生保護者は94%、卒業生保護者が100%となり、非常に高評価となっています。

#### (2) 教育内容

##### ①現状と課題

ほとんどの項目で「そう思う」「ややそう思う」を合わせると80%を超えており、教育内容には理解と賛同を得ていると受け止めております。「学校行事以外でも生徒が活動できる場が充実している」には「そう思わない」が在校生保護者26%、卒業生保護者16%と他の項目と比べ評価が低くなっていますが昨年度と比較すると大きく改善しており、コロナ危機以前同様に活動できたことが関係していると考えられます。今後も学校行事以外で生徒が活動できる場としてクラブの充実や地域行事への参加を図って参ります。

#### (3) 健康管理

##### ①現状と課題

96%が適切になされているという評価は、保健室運営内容の日々の充実、健康診断の結果にあわせた再検査の実施、日々の健康チェックが理由だと考えられます。

##### ②今後の改善方策

健康管理は生徒の安全に繋がる大切なものです。思春期の身体と心づくりは、後々にも大きく影響します。また、感染症予防の観点からも毎日の体温測定を継続してまいります。これからも学校と家庭で生徒の健康を見守っていく考えです。

#### (4) 生徒支援

##### ①現状と課題

ほとんどの項目で「そう思う」「ややそう思う」が90%以上となっています。特に「お子様には親身に適切に対応している」が在校生保護者96%、卒業生保護者100%となっており保護者から信頼を得ている成果だと受け止めております。日々の様子は担任を通して家庭にお知らせしています。また担任にすべてを任せるのではなく、週に一度の生徒支援会議などを通して学科全体で生徒を支援しています。「生徒間のトラブルの対応」については、在校生保護者は92%、「学校は家庭と連携した生徒支援ができています」在校生保護者は93%であり、高い満足度が伺えます。引き続き学校と家庭が連携して生徒を支援できるようにしていきます。

##### ②今後の改善方策

複数の担当者を設置し、多面的に支援できる体制を整えると共に、必要に応じて、養護教諭やスクールカウンセラー、YMCA総合教育センターと連携し、生徒を支援してまいります。また、複数担任制により、生徒間トラブルに迅速に対応し、適切な保護者との連携に努めます。

#### (5) 保護者

##### ①現状と課題

両学科とも高い評価でした。保護者交流会やPTAは卒業してからも参加していただける仕組みにしていることも一因かと思われます。

②今後の改善方策

編入生保護者にも、丁寧な対応や、適切な情報をお伝えしていきます。

(6) 情報公開

①現状と課題

「学校のHPはわかりやすい内容になっている」は在校生保護者89%、卒業生保護者91%と評価が高くなりました。また、「さくら連絡網」という一斉配信のシステムを導入し、タイムリーに情報を共有することができるようになりました。さくら連絡網について保護者はほぼ100%が有効であると回答いただきました。昨年の評価を受け、配信のタイトルの統一や情報を早く配信するなど改善した成果と言えます。

②今後の改善方策

今後も、ホームページやインスタグラムを通じて、適切な内容をタイムリーに頻回にアップロードしていきます。

以 上